

IT-1 「ユーザー要求に振り回されないプロジェクトマネジメント」

8/31 13:10

KDDI株式会社
執行役員 情報システム本部長 繁野 高仁

【セッション概要】ソフトウェア開発プロジェクトが失敗する大きな原因は、要求定義の不備、遅延、変更にあり、要求を述べるべきユーザー側の責任は重い。しかし、ユーザー側から見れば、ビジネス環境が変化すれば要求が変わるのは当然であり、柔軟に対応できないソフトウェア開発にこそ問題がある。

要求定義を精緻化し凍結して問題を克服しようとするのではなく、「ユーザー要求を無闇に聴かない」、「聴いたらすぐ作る」方向に発想を変えて見てはどうだろうか。新しい発想に基づくKDDIの取り組みを紹介したい。

【講師略歴】日本NCRを経て第二電電（現KDDI）とDDIポケット（現ウイルコム）の創業に参画し、情報システム部門の責任者として社内システム全般を統括。2000年からは、DDIとKDDI、IDOの合併に伴うシステム構造改革を推進。情報処理学会、経営情報学会会員。

IT-2 ITガバナンス活用によるプロジェクトマネジメントの組織力強化 <企業リスク・マネジメントの視点からの考察>

8/31 14:20

株式会社システムオリコ
代表取締役社長 栗原 秀仁


【セッション概要】主にITプロフェッショナルを対象に企業リスク・マネジメントの視点から以下の3点について考察し、プロジェクトマネジメントの組織力強化に向けた情報を提供する。

(1) 経営的視座から俯瞰した内部統制フレームワーク（日本版COSO）の捉え方を解説。(2) 内部統制におけるITガバナンスの位置づけをCOBIT等を参照しつつ確認。(3) 内部統制、ITガバナンスを踏まえたプロジェクトマネジメントの役割と効用について、オペレーショナル・リスクとITプロジェクト・リスクの関係等を交え持論を展開。

【講師略歴】(株)オリココーポレーション常務取締役、グローバルフォーカス(株)代表取締役社長を経て、現職。プロジェクトマネジメント学会理事・研究委員会副委員長、日本リスクマネジメント学会会員、ISACA会員、早稲田IT戦略研究所ELFメンバー、PMP®。

EG-1 国際宇宙ステーション開発プロジェクトにおけるリスク・マネジメント

8/31 13:10 <有人安全設計手法と安全管理>

宇宙航空研究開発機構 JEM運用プロジェクトPM 長谷川 義幸、開発員 吉原 徹、
宇宙基幹システム本部 客員開発員 朝田 洋雄 

【セッション概要】国際宇宙ステーション開発は人類史上最大規模の国際宇宙科学技術協力プロジェクトで、日本、米国、ロシア、カナダ、欧州等世界15ヶ国が各々の実験モジュールを分担開発して、宇宙で組立てる現在進行中のプロジェクトである。

これまで有人宇宙機開発の経験がなかった日本にとって、独自の宇宙実験棟開発で経験した安全設計要求は非常に厳しいものであったが、NASA安全審査を何回も受け、安全設計手法の奥深いノウハウを修得してきた。

本報告では、実例を選びそのエッセンスを紹介する。

【講師略歴】長谷川義幸：1976年芝浦工大修士課程終了。同年宇宙開発事業団（現宇宙航空研究開発機構）入社、通信・放送・気象実用衛星用管制システム開発に参加。1985年から1年間、NASAジェット推進研究所に留学。1995年より国際宇宙ステーション日本実験棟開発プロジェクトに参加。現在、PMに従事。

EG-2 エンジニアリングプロジェクトにおけるP2M適用モデル

8/31 14:20 <P2M-DNAの構築に向けて>

日揮株式会社
企画渉外本部副本部長 田中 弘

【セッション概要】総合エンジニアリング業は50年の実践を通じたPMのDNAを形成している。PMはコアコンピテンシーであり、ビジネスにしっかりと根付いている。しかしP2Mへのチャレンジは高いトーンでは語られてない。(財)エンジニアリング振興協会PM部会とPMAJのP2M部会ではジョイントチームを通じてエンジニアリングプロジェクトでのP2Mフィロソフィーと手法の活用状況を探り、これを適用モデルとして纏める作業を行っている。

本セッションではこの取り組み紹介し、エンジプロジェクトでのP2Mの世界を紹介する。

【講師略歴】1967年慶応義塾大学法学部卒・日揮株式会社入社。プロジェクトの生産管理担当、プロジェクトアドミニストレータ、インドネシア合弁会社業務部長、業務部プロポーザルサービスマネジャー、業務部長・副本部長・プロジェクト業務本部長代行兼日揮プロジェクトサービス取締役を経て現職。

MS-1 日本を元気にする農業活性化プロジェクト

8/31 13:10 <マネジメントの基本は、人望だ>

株式会社エイガール
代表取締役社長 伊藤 淳子

【セッション概要】食料自給率の低下や、少子高齢化、環境保全など、いろいろな点で、農業や地域の活性化が問われている。

しかし、農業を営む人々と、農業周辺ビジネスで関わる人々の根本的な考え方や温度差は、想像以上に深い溝がある。目標設定以前の企画推進コンセンサスのとりまとめ、プロジェクトの進行管理やマネジメントなど、農業や地域のプロジェクトが成功するための要因と実際の活動について、体験を踏まえて発表する

【講師略歴】大手出版社の雑誌や出版の編集企画制作を経て、漫画家寺沢武一の著作権管理&プロデュースを15年担当。現在は、地域ブランドの企画開発コンサルティングなど、農と食を主なテーマにしている。中小機構地域ブランドアドバイザー。農林水産省「食料・農村・農業政策審議会」委員

MS-2 新型マツダロードスターの開発

8/31 14:20 <商品コンセプトと開発モチベーション>

マツダ株式会社 プログラム開発推進本部
ロードスター開発主査 貴島 孝雄

【セッション概要】新型マツダロードスターの商品コンセプトは“人馬一体”と称して、人の感性に訴える価値を定義し具現化した商品である。乗馬の世界で馬と騎手が作り出す人馬一体感を、工業製品であるクルマとドライバーの間にも具現化したいとの狙いである。クルマを意のままに操る楽しさ、クルマの美しさ、満足感など数値化の困難な感性目標を如何に定義し、クルマとして開発ベクトルを束ね、開発者モチベーションの維持、高揚を図ったか、開発ストーリーを通して、プロジェクトマネジメントを紹介する。

【講師略歴】1967年東洋工業（現マツダ株式会社）入社。商用車、乗用車のシャシ設計開発に従事。1980年代にはRX-7、ルマン24時間レース優勝の787B車等も開発。1992年からRX-7、2代目ロードスターの開発主査。2001年から3代目ロードスターの開発主査。モノ創りをテーマに講演多数